

●日 時 平成27年2月26日(木) 13時30分～16時00分

●場 所 美濃加茂市生涯学習センター203号室

●参加者 (敬称略)

【ビジョン懇談会委員】

- ・加藤武志(会長)
- ・高嶋 舞(副会長)
- ・岸田真代
- ・種村浩人
- ・林 尚史
- ・加藤慎康

【加茂郡定住自立圏担当者】

- ・坂祝町 総務課長 三品智裕、主査 野村浩貴
- ・富加町 総務課長 粥川友和、企画グループ長 亀山和彦
- ・川辺町 企画まちづくり課長 桜井繁治、課長補佐 馬場 誠
- ・七宗町 企画財政課長 渡辺 孝、課長補佐 塚本 誠
- ・八百津町 総務課長 青山孝平、係長 奥村芳弘
- ・白川町 企画課長 佐伯正貴、係長 藤井充宏
- ・東白川村 総務課 安江 宏、係長 桂川憲生

【美濃加茂市】

- ・美濃加茂市長 藤井浩人
- ・総合戦略室長 伊藤誠一
- ・市民協働部長 渡辺久登
- ・地域振興課長兼定住自立圏推進室長 大畑英樹
- ・定住自立圏推進室 安田智洋、伊藤浩申、川上明里

- 議 題
1. 開会あいさつ
 2. みのかも定住自立圏第2次共生ビジョン(案)について
 3. 平成27年度みのかも定住自立圏構想共生ビジョン懇談会の運営方針について

【会議録(発言は要約です)】

●市民協働部長(あいさつ)

本日の会議では、第2次共生ビジョンの最終確認をすると共に、平成27年度のビジョン懇談会の運営について、ビジョン懇談会委員の皆さんと議論を交わしたいと思っています。

1年間をかけて作り上げたものがようやく形となり、皆さんに示すことができました。しかし、これらを作成するときにもテーマとなった「都市圏とのつながり」「新しい公共」の2つの柱を目標にして、実際に進めて行く過程が重要です。

現在、どのまちも様々な戦略計画を立て、地方創生の取り組みでは、広域の連携が求められています。従って、定住自立圏の取り組みで培った活動を生かし、地方創生の戦略を巻き込みながら、今回の取り

組みを推進していきたいと考えています。

●加藤武志委員（あいさつ）

各市町村から事業を提案し、この1年間をかけて協議を重ね、ついに形となりました。本日は短い時間ではありますが、どのような形に落ち着いたのか、各市町村からの報告を聞き、今後の事業展開をどうするのかを議論して、実のある事業にしていきたいと思います。

●事務局

みのかも定住自立圏第2次共生ビジョン案について説明します。

新規重点事業として、今年度にプレゼンを行い、ビジョン懇談会委員の承認を経て採択された14事業を掲載しています。

加えて、前回のビジョン懇談会では予定の無かった、継続事業を掲載することにしました。これは、昨年11月末に総務省からの財政支援措置の拡充の通達を受け、財源が確保できる見通しとなったことから、予算編成の中で総合的に判断しました。

継続事業は、これまでの5年間における第1次共生ビジョンに位置付け、取り組んできた事業です。そのうち11事業を、今後も継続して実施すべき事業であると方針を定め、掲載することにしました。

第4回ビジョン懇談会后、各市町村で予算措置が行われたため、前回から変更された点等について説明をお願いします。

●坂祝町（みんなで子育て応援事業）

以前と比べ、各経費の積算根拠を変更しました。以前は、施設整備の予算を組んでいましたが、現状を知ってニーズを探る必要性があるため、ワークショップを行うことにしました。

●美濃加茂市（里山アートプロジェクト事業）

当初は、昭和村と合わせて3,000万円規模の事業を推進する予定でしたが、詳細まで詰めることができず、平成27年度は、昭和村と合わせて600万円の事業を、昭和村に委託します。アートイベントを活かした地域づくりを研究するため、地域振興課で行うことになりました。

●富加町（「織田信長の東美濃攻略」を活用した歴史PRマンガ作成事業）

予算変更はありません。ただし、織田信長像の捉え方は研究者によって異なるため、今後研究を進めていくという方針を固めることで、研究者の理解を得たいと考えています。

●川辺町（ボート王国プロジェクト事業）

当初は、美濃加茂市や八百津町と連携して推進していく予定でしたが、八百津町から事業の動きを見つつ参加したいとの要望があり、平成27年度は美濃加茂市と連携をする内容に、計画を変更しました。

●八百津町（野外フェスティバルからはじまるあたらしいコミュニティ事業）

当初と比べて、蘇水公園の会場内に、圏域の物産や移住・定住等をPRできるブースを設けることにしました。また、フェスティバルの開催日は、8月8日（土）となりました。この情報は、『RAINBOW CHILD 2020』のホームページで公開しています。

●美濃加茂市（みのかも魅力発信！名古屋交流拠点事業）

事業内容に変更なし

●美濃加茂市（里山再生プロジェクト事業）

事業内容に変更なし

●美濃加茂市（K i s o ジオパークにぎわい創出事業）

事業内容の変更がありました。当初は、まちづくり会社を作り、事業主体となって進行する予定でしたが、会社の設立が間に合わないため、平成27年度は堤防の整備を行う計画となりました。その後、事業の進捗に応じて、最終的にまちづくり会社へ事業の主体を移す方針です。

●富加町（おんさいE X P O 事業）

事業内容・予算の変更はありません。先日のビジョン懇談会で指摘を受けた内容を反映し、単にイベントを行うだけでなく、地域とどのように関わっていくのか、工夫が必要なことを主体団体に指導していきます。

●白川町（名古屋市民をみのかも定住自立圏域へ招くツアー事業）

計画に変更はなく、当初通り年10回を予定しています。いかに定住に結びつけるか、という助言を受けて、ツアー内容やツアー後のフォローアップを盛り込むことを検討しています。

●東白川村（R 4 1 カード事業）

事業内容・方法の変更はありません。予定通り実施していきます。

●美濃加茂市（生物多様性地域連携促進事業）

この事業は、生物多様性の研究と環境フェアを開催するという、2つの実施項目があります。県の森林環境税で実施することを考えていますので、採択されたときに補正予算対応するという市の方針となり、当初予算は年度初めに必要な経費に留めることになりました。

●美濃加茂市（地域情報放送事業）

内容に変更はありませんが、予算額が増えました。今まで直接支払っていたケーブルテレビへの委託費を計上し、定住事業として実施していく方針です。

●七宗町（地域づくり研究連携事業）

「交流の場の提供とレッキーマラソンコース沿いの環境整備事業」「でか金を媒体にした地域づくり事業」「龍神さんが棲む箱庭のまち」まちづくり事業」の3事業を1つにまとめてビジョンに掲載することになりました。また、各団体と調整した結果、1団体の補助額を200万円から150万円へ減額しました。

●定住自立圏推進室長

以上14事業を、継続事業と共に4月から実施する予定で進めています。

質問や意見はありますか。

●岸田眞代委員

坂祝町の子育て支援事業計画書の積算根拠に、子育てに携わる人材育成支援委託費として、7項目が挙げられていますが、各項目の内容や実施方法は、具体的に決められているのでしょうか。

●坂祝町

平成27年度は、現状を把握し分析した上で、人材を募集・確保していく予定です。現状がどんな人材を必要としているかは、実際に調査し分析してみないことには分からないので、ワークショップを中心に実施し、次のステップに繋げていきたいと思います。

●岸田眞代委員

今の説明のように、事業計画書にも、実施内容の流れが見えると、第三者にも理解してもらいやすいと思います。

●加藤慎康委員

七宗町の事業を1つにまとめたのは、事業を1つに絞るということですか。

●事務局

3つある事業を1つに選別するのではなく、3つの事業が『団体の育成』という同質であるため、3つを総じて「地域づくり研究連携事業」と呼称し、ビジョンに掲載します。

●岸田眞代委員

七宗町の3事業の計画書は、各団体が提出した事業計画を基に作成されているのですか。また、名称を1つにしたとはいえ、各事業を各団体でそれぞれ進めて行く方針は、変わらないのでしょうか。

●七宗町

どちらもその通りです。事業計画書は団体の事業計画を基に作成され、それぞれの事業をそれぞれの団体が実施していきます。補助額を150万円に減額したのは、各団体の事業計画に基づいたためです。

●林 尚史委員

白川町のツアー事業は、リピートしてくれる客を確保するために、来てほしい客層を踏まえたガイドの育成や、需要に合わせたガイドの育成が必要になると思います。

●高嶋 舞委員

事業計画書には「事業の成果指標」「平成27年度の達成目標」という項目がありますが、指標や目標を記入している事業と記入されていない事業があります。5年間でどこまで実施するのか定めなければ、明確な期間や内容を実行していくことは難しいのではないかと思います。

●事務局

第2次共生ビジョンにおける各事業は、提案自治体に関わらず、進捗を報告し、全体で共有することは必要だと考えています。従って、各町村提案事業についても指標を設定し、各町村定住担当課において進捗を管理して行く予定ですので、各町村にもご協力いただきますようお願いいたします。

●加藤武志委員

第1次共生ビジョンの各事業を5年間実施した結果、当初と比べて目標と結果に変化はあったのでしょうか。

●定住自立圏推進室長

今年度が最終年度であるため、最終的な検証はこれからとなります。しかし、今回ビジョンに掲載する事になった「継続事業」は、各担当課において実施すべき事業か否かを吟味した上で、取捨選択した事業です。

●加藤武志委員

その地域に魅力を感じて、住んでもらう事が定住自立圏事業の目的ですから、結果においても、その事業がどれくらい地域に貢献したかを見ていく必要があると思います。同じように、予算の使い方を問うのではなく、事業の質や中身を考慮した上で計画書を作成してほしいと思います。

●事務局

第2次共生ビジョンの冊子は、必要事項を総務省へ報告するための冊子ですので、表記方法の制限がありますが、事業計画書に関しては予算要求時に根拠となる資料であるため、指標の定め方や内容を工夫し、進捗管理に活かせる作りしていきたいと思います。

●加藤武志委員

定住自立圏事業の明確な目標達成といえば、定住者の増加だと考えていますが、事業によっては直接的な関連を持たない事業もあります。定住自立圏全体でアンケートや、定点観測する予定はあるのでしょうか。

●事務局

今のところ予定はありません。

●加藤武志委員

複数の要素が絡んで指標に向かっているか否かを、中心市が核となって管理しても良いと感じます。

●定住自立圏推進室長

それでは、継続事業を含めた各市町村提案事業について、第2次共生ビジョンに掲載することを、ビジョン懇談会委員の皆さんに承認いただきたいと思います。意義はありますか。

●ビジョン懇談会委員

異議なし。

「みのかも定住自立圏第2次共生ビジョンについて、全会一致で承認」

●定住自立圏推進室長

それでは次に、平成27年度のビジョン懇談会の運営について、方針を説明します。

●事務局

平成27年度も、現ビジョン懇談会委員6名の皆さんに、引き続き助言などの協力をしていただけることになりました。事業を進捗していく上で、各市町村に足りない取り組みへの意見をいただくことを含め、平成28年度も協議をし、助言をいただきたいと考えています。ビジョンは毎年見直して変更することができるため、この協議によって、ビジョン懇談会委員の皆さんの助言を反映しつつ、事業を進めて行くことができます。

平成27年度は4回のビジョン懇談会を予定しています。前半では、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係るみのかも定住自立圏のあり方を検討します。この戦略では、定住自立圏とは別の次元で市町の広域連携が求められています。定住の考え方と類似していることから、定住での取り組みに活かしつつ、指標を持って行うことを話し合っていたきたいと思っています。

後半では、ビジョン懇談会委員の皆さんに、平成28年度予算についての助言をいただきたいと考えています。これによって、平成28年度みのかも定住自立圏第2次共生ビジョンの変更を決定したいと思っています。

●加藤武志委員

定住自立圏の考え方と、地方創生の考え方は似ているため、ビジョン懇談会でこの話題を議論することは、整合性があると思います。

●林 尚史委員

行ったことのない町の事業があり、このような事業に対しては、一般論しか言えなくなってしまうため、一度、現場を見て回りたいです。それによって、より活発なディスカッションが出来ると思います。

●事務局

町村は、総合戦略と定住自立圏事業との関連性をどう考えていますか。

●各町村

定住自立圏事業を地方総合戦略に位置付けるとの回答。

●加藤慎康委員

私も、各市町村が連携している主体団体等の現場の話を知りたいです。また、地方創生政策が絡むとなると、それぞれ磨かなければならないことが出てきます。その時に、林委員のような、全国を回っていて見識の深い人物に意見を求めることが大切だと思います。

●種村浩人委員

これらの事業を、非常に楽しみにしています。

●高嶋 舞委員

来年度のスケジュールに少し不安があります。10月に、次の年度をどうするべきかを問う予定のようですが、予算作成時期と重なっているため、新規事業を追加するような状況になった場合、実際に実行できるのか不安です。

●岸田眞代委員

現場の生の意見を聞きたいというのは同意見です。

平成27年度の第1回ビジョン懇談会で「圏域自治体の個別の方針を把握」とありますが、圏域全体として何を図り、定住自立圏事業と地方総合戦略の位置づけをどうするのかを、問う必要があります。全体が見えて来ると、事業の方針や在り方が明確に見えて来ると思います。「戦略を立てるときに、何が必要で何を考えているのかを理解してもらうこと」を前提に、ビジョン懇談会で話ができると良いと思います。それは、自治体ごとに事業の課題を確認した上で、協議できると良いです。

●林 尚史委員

圏域各地へ出向くことで、距離感やその場所の空気を実感できるので、より現実的な手法や意見が出てくると思います。

●事務局

事業の現場に近い場所で、協議することは大切なことだと思っています。従って、来年度のビジョン懇談会では、町村にも場所の提案をしていただきたいと考えています。ご協力をお願いします。

●加藤武志委員

私も、現場を見ながら会議が出来るが良いというのは同意見です。

地方創生戦略は知恵比べであり、全国の地域同士が競り合うことを予見しています。その意味で、全国規模の情報を知っているシンクタンクの存在は大きいと思います。私たちビジョン懇談会委員は、各ジャンルに精通した人物として選ばれていますので、この切り口をぜひ利用してほしいと思っています。

また、事業計画書の記入表現が、画一的であることも同意見です。これでは、定住自立圏事業のため、予算消化のための事業に見えてしまいます。そこに至るまでの背景や各市町村の思いが伝わると、私達も助言の幅が広がります。

そして、スケジュールに関しても、予算策定期間に来年度から新規事業を入れ込むことが、現実的に可能なのか疑問があります。現在の進捗状況をチェックしつつ、スケジュールを立てていくことができると良いと感じました。

●美濃加茂市長

今年度、多忙を極めているビジョン懇談会委員の皆さんが、何度もこの会議に出席していただいたことを、誠に感謝申し上げます。私たちは、委員の皆さんがなぜこの場に来ていただいているのか、その意味をもう一度考え、しっかりと結果を残すことで期待に応えていく必要があります。

地域で行わなければならない課題であり、それを解決するための事業なのですから、財源や仕組みなど、利用できるものは利用し、実施してほしいと思います。

定住や移住などは地域活性化に直結しており、各事業は担当者が夢を持てるような事業でなければならないと考えています。数字などの目に見える結果を残すことだけが、成果ではありません。圏域全体が誇りを持ち、自信を持って次世代へ引き継げるよう、儲からずとも人材が集まる地域、人材を掘り起こせる地域のための事業であってほしいと思います。

また、医療や福祉など、これら定住自立圏事業以外の事業についてもしっかりと取り組み、全国発信できるような、先駆的な地域にしていきたいと考えています。そのために、引き続き皆さんの力をお貸しください。よろしく願いいたします。

(終了)